

# PCB汚染地区の母親とその児に関する研究

分担研究者 高久功（長崎大医・眼科学）  
研究協力者 辻芳郎（長崎大医・小児科学）  
吉田彦太郎（長崎大医・皮膚科学）  
大塚喜久雄（長崎県衛生公害研究所）

## はじめに

昭和43年以来、西日本一帯に多数の患者が発生したPCB中毒症、いわゆる「カネミ油症」は、現在でも、診断、治療の面で未解決の問題が多く、また、PCBの小児の成長、発育及び次代の健康等の影響について、危惧がもたれている。

長崎県では、長崎市、五島列島玉之浦町、奈留町に、多数のPCB汚染食用油摂取者

が居住し、油症患者と認定されている者は683名である。

これらの油症患者の中には、経口摂取のみでなく、母乳または経胎盤により発生した児も相当数みられ、妊娠可能な油症患者にとっては深刻な問題である。

我々は、PCB汚染地区の母子健康管理の資とするため、次の3つの項目について研究を行ったので報告する。

## I PCB汚染地区における児童生徒の体格体力の検討

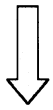
遠矢芳一・永吉智子・永末俊郎  
富増邦夫・辻芳郎（長大医・小児科学）

最近の小児の発育は、地域的な格差はみられるものの、身長、体重、胸囲などで表わされる体格は、栄養の改善、生活習慣の改良などに伴って向上している。

しかし、その反面、走力、跳力、投力などの体力の伸びは、必ずしもこれに伴っていない傾向がみられ、また、栄養の摂取と運動量の不均衡などに起因すると思われる肥満児が増加しており、社会的問題にすらなっている。

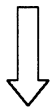
一般的に、小児の成長に影響を及ぼす因子としては、遺伝、栄養、ホルモン、精神的環境要因、疾病罹患など、多くの因子が考えられており<sup>1)</sup>、また、1968年の、米ぬか油製過程で使用されたカネクロールK-

400 (PCB) の混入した油を経口摂取したための中毒、いわゆる油症が、一時的か永続的な影響かは不明であるものの、小児の成長発育に障害因子として働いているとの報告もみられる<sup>2),3)</sup>。更に、油症診断基準の中には、新生児のSF<sub>D</sub>、小児の成長抑制の項目も含まれており、注目される。しかしながら、昭和50年と51年度に当教室が実施した、カネミ油経口摂取被害児と患児ならびに経胎盤油症児に対する身体発育の検討では、正常児群との間に明らかな差異は見出し得なかった。ただし、いずれにしても、油症に関するこれらの報告は、体格面を主体とした検討結果であり、体力をも含めた総合的な評価はなされていない。そこ



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



はじめに

昭和 43 年以来、西日本一帯に多数の患者が発生した PCB 中毒症、いわゆる「カネミ油症」は、現在でも、診断、治療の面で未解決の問題が多く、また、PCB の小児の成長、発育及び次代の健康等の影響について、危惧がもたれている。

長崎県では、長崎市、五島列島玉之浦町、奈留町に、多数の PCB 汚染食用油摂取者が居住し、油症患者と認定されている者は 683 名である。

これらの油症患者の中には、経口摂取のみでなく、母乳または経胎盤により発生した児も相当数みられ、妊娠可能な油症患者にとっては深刻な問題である。

我々は、PCB 汚染地区の母子健康管理の資とするため、次の 3 つの項目について研究を行ったので報告する。